

運動・おにごっこ ～ 光と影・人の動き～

とうきょうすくわくプログラム
活動実績報告書

東村山むさしの第一認定こども園
【幼稚園番号:2032414】

テーマを設定する

- ・ 広い園庭や雑木林エリアでの身体をつかった遊びを通して、光や影、植物などの自然に触れたときにこどもたちが感じた疑問に対して、興味を持つように促していく。
- ・ おにに捕まらないようにするには、どのように動いたらいいか、友達と考え、協力しながら活動できる。
- ・ 身体をつかって遊んだときに、「人の動き」に着目し、人間の身体づくりについて、また他の生物との違いについて、こどもたちの考えを深掘りしていく。

活動スケジュール

活動内容		時間/回	人数/回	ねらい（問い）
①	おにごっこ①	0.5時間	25人	<ul style="list-style-type: none">・移動できる範囲を指定した（白線上のみ）おにごっこを行う準備を行う。 →最初は四角形に引かれた白線上の散歩から入り、ルールを理解してもらう。
②	おにごっこ②	0.5時間	23人	<ul style="list-style-type: none">・実際におにごっこを行う。 →前回の四角形の中に縦横1本ずつ線を追加し、「田」の字の線上でおにに捕まらないように逃げる。 また、おにごっこを通して影について考える。
③	おにごっこ③	0.5時間	23人	<ul style="list-style-type: none">・前回の「田」の字にさらに斜め線などを追加し、難易度をあげる。
④	いろいろな運動	0.5時間	23人	<ul style="list-style-type: none">・カラーボールやドッジボールを使って、捕る・投げる・よけるなど様々な動きについて考える。

おにごっこ①-1

■ 環境をデザインする

- ・スマートフォン（記録用）
- ・ラインカー、石灰（動ける範囲を決めるため）
- ・ストップウォッチ（時間計測のため）

■ 探究活動を実践する

・ 活動内容

まずは今回のおにごっこのルールを覚えてもらうために、四角形に引いた白線上を散歩することからスタートする。

【基本ルール】・白線上しか移動できない。線上は1人分で並列不可とする。

・おには先生1人で歩きながら捕まえに行く。（走ることはない。）

・白線上は自由に動けるが追い越すことはできない。また、前から人が来たら話し合い、どちらかが戻らなくてはならない。

おにごっこ①-2

■活動中の様子

- ・まずは準備体操からスタート。
- ・はじめは先生のうしろをついて歩くところから始める。白線は四角形。この段階で白線の上しか歩いてはいけないというルールを説明。

⇒ みんな元気よくお散歩していた。

時々白線上から外れてしまう子どももいたが、呼びかけを行うと白線上に戻ることができていた。



おにごっこ①-3

■活動中の様子

- ・最初は四角形だった白線を「日」の字になるように1本線を加える。
二股に分かれたら、好きな方に行っていいことを伝える。

⇒線を加えてすぐに、正面から歩いてきてお見合いになった。

「線の上は一人しか歩けないよ。どうしたらいい？」と問いかけると「じゃんけん！」と答えるこどもが多く、じゃんけんを負けた方が来た道に戻ることで問題を解決していた。



おにごっこ①-4

■活動中の様子

・線をさらにもう1本加えて「田」の字になるようにした。

⇒いろいろな方向へ進めるようになり、正面から歩いてくる場面がうまれた。

「線の上は一人しか歩けないよ。」

「どうしたらいい？」と問いかけると

「じゃんけん！」と答えるこどもが

多く、じゃんけんに負けた方が来た道に戻ることで問題を解決していた。



おにごっこ②-1

■環境をデザインする

- ・カメラ（記録用）
- ・ラインカー、石灰（範囲を決めるため）
- ・ストップウォッチ（時間計測のため）

■探究活動を実践する

・活動内容

実際におにごっこを行う。「田」の字に引いた白線上を歩いて追ってくるおにから逃げる。

→クラスの友達と話し合い、協力しながらおにから逃げられるか？

→おにの動きや行こうとする先のことを考えながらルートを決められるか？

活動の合間に光と影について考える時間を設ける。（影の長短や濃い薄いなど）

おにごっこ②-2

■活動中の様子

- ・前回までに行った内容を復習。
実際におにごっこを行う。
⇒ おに役の先生は「歩いて追いかけるよ！」と伝えていたが、こども達は走って逃げていた。
結果、みんなおにから遠ざかるように逃げて一辺に固まってしまう場面が多くみられた。



おにごっこ②-3

■活動中の様子

- ・こども達が固まっている所におにが近づいてくると前のこどもを追い越してしまったり、線から外れて逃げたりするこどもが何人か見られた。一方でおには走らないことが分かったのか、おにのうしろを一定の距離を開けて歩いたりするこどももいた。



おにごっこ②-4

■活動中の様子

- ・おにごっこ終了後に「みんなの足元の黒いものはなに？」と問いかけると「かげ～！」と答えていた。
「この影からみんな逃げられるかな？」との問いには半分くらいのこどもが「逃げられるよ！」といて、みんなで影から逃げ始めるもずっと影はついてきて不思議に思っていたこどももいた。



逃げろ～！！

おにごっこ③-1

■環境をデザインする

- ・カメラ（記録用）
- ・ラインカー、石灰（範囲を決めるため）
- ・ストップウォッチ（時間計測のため）
- ・タブレットPC（その場で子ども達に動きなどを見せられるように）

■探究活動を実践する

・活動内容

前回の「田」の字の中に「×」の線を追加しておにごっこを行う。

→斜め線を追加してもルールは一緒、理解して動けるか？

→線が増えることで、逃げるルートも増える。おにを見ながら動けるか？

おにごっこ③-2

■活動中の様子

- ・ 前回から間が開いたこともあり、お散歩からスタート。
- ・ 「田」の字のラインまでは前回同様。今回は外の角から対角線を「×」になるように引いた。
- ・ おにごっこを始めるも逃げ道はたくさんあるが、大きく2つくらいのかたまりになることが多く、自由に逃げ回っているのは数人といったところ。



おにごっこ③-3

■活動中の様子

・おに役の先生が子どもたちが集まっているのを見つけ、「そこにいっぱいいるなあ。」と言って追いかけると、線は無視して逃げてしまったり、追い越しをしてしまう子どもが何人か見られた。

⇒斜め線を引いたことにより、線と線が近くなったところがあり、ジャンプして隣の列に飛び移る子どももいた。
(線を踏んでいなくてはいけないというルールは守ろうとしたのだろう。)



いろいろな運動①-1

■環境をデザインする

- ・カメラ（記録用）
- ・ラインカー、石灰（位置を決めるため）
- ・ボール（小さいカラーボール、ドッジボール）

■探究活動を実践する

・活動内容

カラーボールを自分で上に投げてキャッチできるか？

→はじめはボールに慣れるために小さく。徐々に大きく投げられるように。

みんなで横一線に並んで、ボールを遠くに投げる。

→身体をどのように使えば遠くに投げることができるか？

円の中でボールをよけるのにはどう動けばいいか？

→ボールの行方はもちろん、円から出ないように、また他の友達の位置を把握して逃げることができるか

いろいろな運動①-2

■活動中の様子

- ・小さいカラーボールを自分で上に飛ばしてキャッチ。先生が最初は小さく飛ばして両手でキャッチするようにお手本を見せるもなかなかうまくできない子どもが多い。
⇒まっすぐ上に飛ばせない子どもが多かった。（前や後ろにいつてしまう。）上に飛ばすことに集中してしまいキャッチまで気が回らなかったり、飛ばした後に落ちてくるのを待てなかったりする子どもが何人かいた。



いろいろな運動①-3

■活動中の様子

- ・横一列に並んで、先ほど使ったカラーボールを遠くに投げるコンテスト！

⇒最初に先生に「ボールを持った手を耳の後ろまで持って行って、前に思いっきり腕を振るんだよー！」と教えてもらう。

次の段階として身体全体を使うために「投げる方を横にして足を開いて投げてごらん！」と教わる。転がった分を含めれば園庭の端の方まで投げれるこどもも何人か出てきた。



いろいろな運動①-4

■活動中の様子

- ・直径10mほどの円の中で先生たちが
転がすボールから逃げる（よける）
爆弾ゲーム！
- ⇒円の中から出てはいけないし、
お友達ともぶつからないように
しなくちゃいけない。そんな状況の
中で集中することが難しいのか、
ボールの行方を追っていないこども
もチラホラ。最後までボールに当た
らずに残ったこどもは横に逃げるだ
けではなく足を広げてよけたりして
いた。



振り返る・共有する

- 最初は散歩から始めた活動も子ども達は笑顔で先生と一緒に取り組んでくれた。
- 線の上を歩くというルールはすんなりと理解できたようだが、車道に例えると1車線だから追い越しはできない、また正面から他のお友だちが来てしまった場合もどちらかが譲ってあげなくてはいけないといったルールについては、理解が難しかったように感じた。
- 「影」については存在は理解していたが、走れば逃げられると思っているお友だちもいた。来年度は異なった時間帯や季節で行い、その長さ等の違いやそうなる理由について問いかけていくのもいいのではと思った。
- ボール投げについては最初は手だけで投げていた子も身体全体を使って投げる先生やお友だちをみて「真似」することで遠くに投げられるようになっていた。
- おにごっこも爆弾ゲームも全体的にまだかたまってしまいうことが多い印象を受けた。あるフィールドを広く使えるように来年度以降も問いかけを行っていきたい。